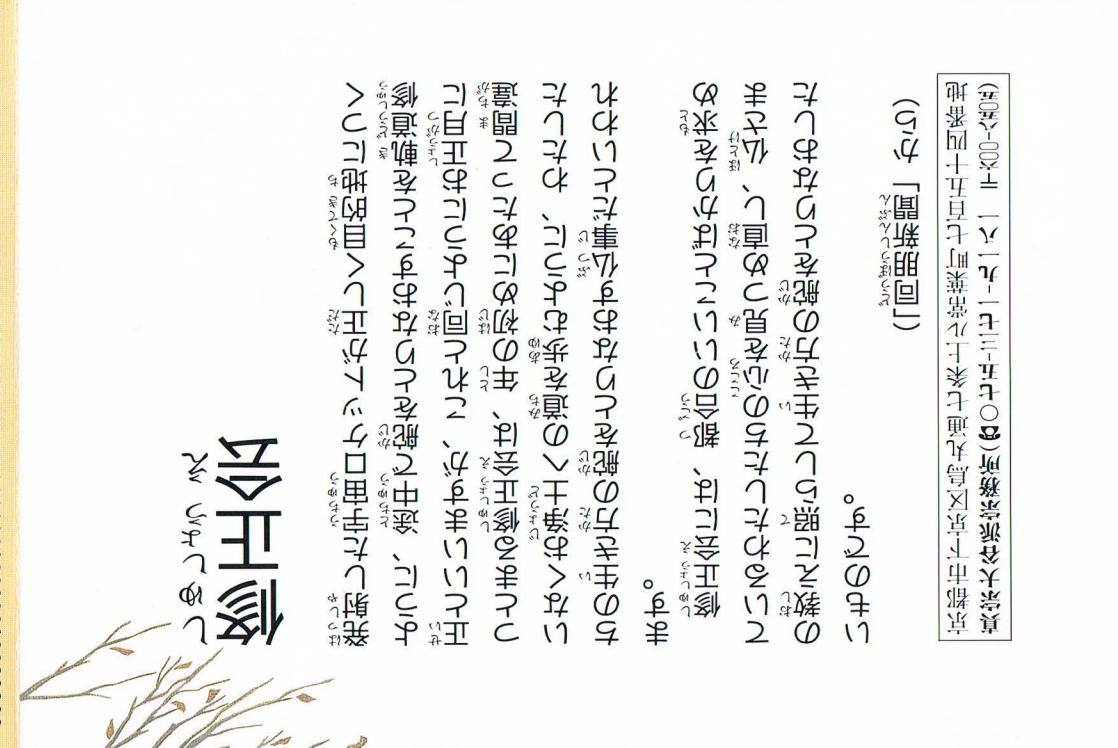
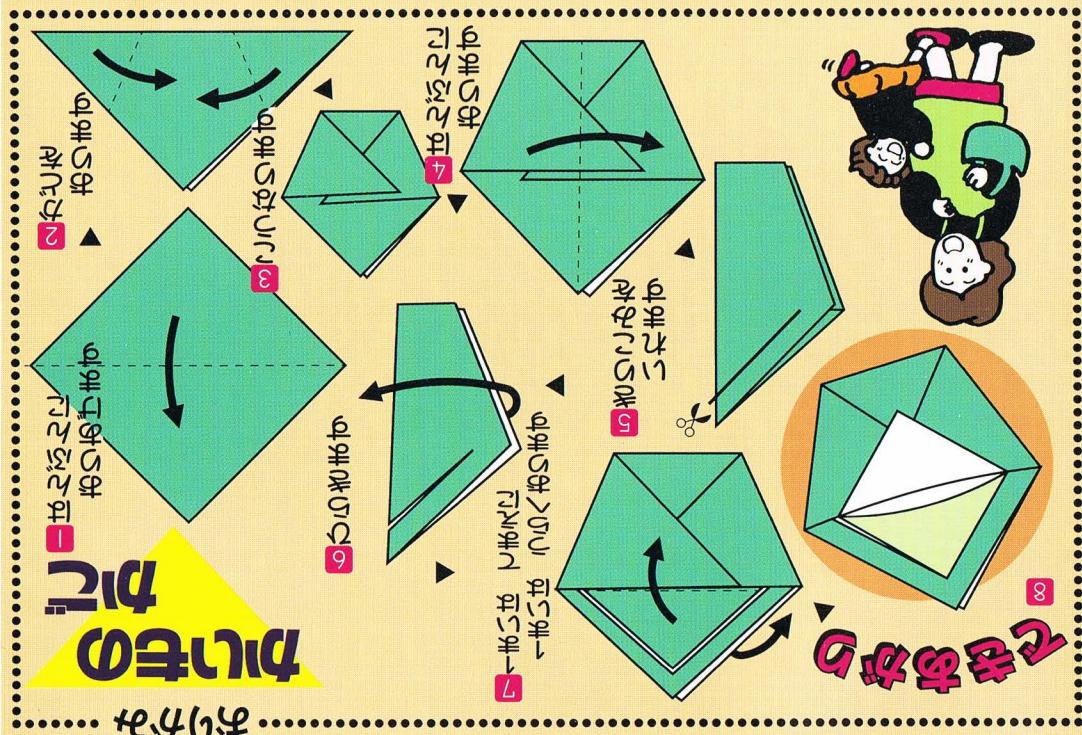


ふゆ
のしおり

修正会

ほとけの子



真宗

——本当にたいせつなこと——

「あけましておめでどう」お正月になれば、どこの家庭でも交わされるあいさつです。しかし、いつたい何がおめでたいのでしようか。ごちそうを食べたり、お年玉をもらつたりできるからでしようか。ひとつ歳をとつて大きくなつたからでしようか。そのためたさの中身をちょっと考えてみるのが元旦のおつとめ（修正会）です。

去年はあまり良いことがなかつたけど、今年はきっと良いことがあるだろうと、新しい年に望みをもつのは当然のことと言えますよ。しかし、何でも望みどおりになつた年など、今までにあつたでしょうか。結局、去年のいやなことを忘れ、お正月に新しい夢を見る、そんなことを毎年くり返しているのではないでしようか。

いのちが無限に續くならば、それでもいいかもしません。しかし誰もが必ず死を迎えます。しかも、自分がいつ死ぬかは誰にもわかりません。いのちには限りがあるということを知り、夢から覚めることが大事です。そうでないといくつになつても「今年こそは」といいながら、もう二度と戻つてこない「今」という大切な時を無駄に過ごしてしまうことになります。

親鸞さまは、人間が生きていくうえでなくてはならないことを「真宗」という言葉で示してくださいました。真宗に出遭えば、誰もがどんな状況の中でも、いきいきと生きることができると教えておられるのです。

自分の好きなことだけを求める生き方は、逆にいえば、いやなことが起ころのではないかといつもびくびくしている生き方です。ところが現実は、自分の望みに反していやな問題がたくさん起こります。そのような中で、いやな問題であつても受け止めていけるのは、自分の好き嫌いよりもっと大切なことがあると気づいた人です。

私たちにとつて何が本当に大切なことであるかそれを改めて考えるのが元旦のおつとめ（修正会）です。